

考えよう 防災のこ と



【問合せ先】地域安全課消防防災係
(☎ 28-9510)

災害や新型コロナウイルスの感染に備えて食料品などを備蓄しましょう



なぜ、食料品などの家庭備蓄が必要なの？

下記のような、あらゆる事態を想定して、できれば1週間分の食料品などが必要です。

▼災害などで食料品が手に入りにくくなった場合

いつ起こるかかわからないのが災害です。いざ発生すると、電気、ガス、水道などのライフラインが使えなくなったり、道路が寸断されたりして、物流が滞るおそれがあります。

▼新型コロナウイルスに感染し、外出できなくなった場合

新型コロナウイルスに感染し、自宅療養者となった場合は、市や県から食料品などの支援を受けられますが、混雑時は、申し込みから受け取りまでに時間を要する場合があります。



何を備蓄すればいいの？

▼水、カセットコンロは必需品。食料品は1人最低1週間分の備蓄を

災害後は、ライフラインが止まる可能性があるため、水とカセットコンロなどの熱源は必需品です。水は、飲料水と調理用水で1人1日約3リットル分が必要です。飲み物はペットボトルや缶入りのお茶、食料品は缶詰やレトルト食品、カップ麺などがあると便利です。

また、新型コロナウイルスにより自宅療養者や濃厚接触者となった場合は、原則、外出ができなくなります。食料品に加えて、家族内感染を防ぐためのマスク、消毒液、ハンドソープ、除菌シートなども備蓄しておきましょう。



食料品の備蓄を始めるには？

▼「ローリングストック法」がおすすめです

食料品の備蓄は簡単に、誰でも無理なく始められます。ローリングストック法とは、「蓄える→食べる→補充する」を繰り返しながら、一定量の食料品が備蓄されている状態を保つ方法です。ふだん食べているカップ麺や缶詰などを少し多めに買い置きして、賞味期限の古いものから消費したら、その分を補充していきましょう。



市では、新型コロナウイルス感染症により自宅療養者となった方がいる家庭で、食料品の確保が困難な場合に限り、食料品などの支援をしています。1週間相当分の食料品（ご飯、レトルト食品など）と、家族内の感染拡大を防止するための日用品（マスク、ゴミ袋）を無料で配布しています。

なお、9月8日から、自宅療養者で無症状患者の方は、感染症対策を講じ、食料品の買い出しなどの必要最小限の外出が可能となったため、支援の対象外となります。詳しくは、市ホームページでご確認ください。

申込方法=新発田市自宅療養者食料支援コールセンター（☎28-7201）へ申し込んでください

※支援が必要な方へ速やかにお届けするため、自分で食料品などが確保できる（家族・知人などから支援を受けられる）方の申し込みはご遠慮ください